

第1回グリ下会議（「グリ下応援団」第1回会議・グリ下実務者会議） 議事要旨

R5.8.28（月）14:00～15:45 中央区役所 703・704 会議室

冒頭、座長あいさつ及び事務局より議事公開範囲の確認。

【議題1】会議の趣旨・目的及び方向性について

事務局より資料1に基づき説明。

（意見）

- ・グリ下で犯罪者が出ており、未然に防ぐ取組が必要。既に加害者被害者両面あり、根の浅いうちに大人が解決を図らなければならない。
- ・知事のいう目的①「若者を犯罪の加害者にも被害者にもさせない」は明確に共通しているが、目的③「若者達一人ひとりが個別に抱える課題を表面だけでなく背景まで捉えて対応する」をどうしていくかの共有が難しい課題。1人1人背景が異なる事をどう共有し「なぜあの場所に集まるか」をデータ化し、就労や家庭等それぞれの役割でアプローチできればと思う。

【議題2】「グリ下応援団」の名称と、構成員の担当業務及び取組について

事務局より資料2-1に基づき説明。

（意見）

- ・グリ下に集まる若者は支援拒否が強く行政につながらない事も多い。「応援されたくない。」という思いを考えると「グリ下応援団」という名称には懸念がある。
- ・この名称だと「グリ下に行くと呼び出してもらえる。」という発信になってしまうか危惧する。
行政色を下げる意図での命名であったが、構成員複数から変更の提案があったため、「グリ下会議」という名称にして開催していくこととする（座長）。

資料2-2の順に構成員自己紹介、所管業務や取組について説明。

【議題3】その他（非公開議事）

<会議の位置付けについて>

- ・条例や要綱等の制定は行わず、座長の招集により開催する事を確認。
- ・情報公開の基本的な考え方について確認。

<スケジュールについて>

- ・年内は概ね月1回程度のペースで開催し、知事・市長への進捗報告を交えつつ以降適宜開催。

<次回以降について>

- ・日程候補の調整。
- ・配布資料の事務局提出方法を共有。
- ・次回議事（案）。

（意見）

- ・グリ下に集まるこども若者は入れ替わりが激しい。今いる子達をどう支援していくか、新しく流入してくる子達へどう対応していくか、必要な取組は異なる。

- ・現在の支援活動は、虐待や貧困に端を発している事後対応が中心。予防という観点から考えると、貧困対策や不登校対策、児童相談所のあり方といったこの会議体では難しい部分まで及ぶ。
- ・大きい話をすれば日本の社会構造への問題提起にまで至るが、そういった議論や発信とともに今このメンバーで何ができるか話し合い取り組んでいく事が必要と考えている。
- ・取組に対する具体的な目標設定が今後できればと思う。
- ・この会議でのつながりを、個別支援する上での連携に活かしていく事が重要。
- ・オンラインでは「グリ下」という言葉が独り歩きしており、子ども若者を結びつかなくするのは至難。
- ・外国人観光客が戻ってきており、そもそもグリ下エリアが集まりにくい場所になりつつある。グリ下が物理的になくなればという単純な問題ではなく、たまり場が拡散すると対応が大変になってくる。
- ・グリ下に集まっている子らは大阪市外・大阪府外からの子どもも多い。こどもの居場所という観点での取組を、大阪市だけではなく周辺市にも波及させていく事が必要ではないか。
- ・子どもや若者の間で、メディアの影響もあるだろうがグリ下が観光地のような認識をされている。また、「グリ下に行けば何とかなる。」と思われている部分もある。
- ・グリ下に集まる事そのものを否定はしない、犯罪行為につながっている事が問題。
- ・就労による自立は重要な観点。ただ一方ですぐに働けるといふ若者の割合は決して高くないと思われ、心のケアや家庭環境調整等が必要な若者は多い。
- ・就労支援では、ユースセンターに支援機関の広報ツールをお渡ししてそこから窓口につなぐ、あるいはユースセンターに出張窓口を設置するといったことも考えられるが、行政色が出ると拒否の原因にもなる。
- ・パパ活等で働かずにお金を手にできてしまっている現状は大きい問題。

<建設局より>

戒橋橋下照明改修案について説明

<認定NPO法人D×Pより>

ナイトユースセンターの支援実績について説明

<大阪府子ども家庭局より>

少年サポートセンターについて説明

座長閉会あいさつ